



<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

高き希望に（第五中学校だより）

平成31年1月8日発行
No.12 校長 矢口 仁

大きな成長を願う ー全体を見直すー 校長 矢口 仁

花を支える枝 枝を支える幹

幹を支える根 根はみえねんだなあ 相田みつを

水仙



明けましておめでとうございます。今日から、授業が再開されました。新たな目標をもち、一回り大きな自分を目指して行ってほしいと思います。

さて、新春恒例の箱根駅伝では、東海大学が青山学院大学の五連覇を阻み、初優勝を飾りました。青山学院大学は、往路の四区・五区で誤算があり、復路では素晴らしい走りを見せたものの、及びませんでした。青山学院の原監督は「以前よりも距離が長くなっている四区に対する考えが甘かった。」という言葉を残していました。

その原監督ですが、十年間のサラリーマンでの経験を生かし、独自の理論と実践でここ数年、顕著な実績を積み重ねてきました。彼の言葉には深みがあります。

「学生は速ければいいのではない。社会に出てから箱根以上の輝きを放つ選手を育てたい。」素晴らしい選手を育てることだけでなく、社会で通用する人間を育てるという姿勢もっています。また、長い距離を走るために、下半身だけでなく体幹を鍛えることや柔軟性を重視しています。目標達成のために、一部分だけでなく、体全体をたくましく柔らかく育てることを大切にしているのです。

そこから、大岡 信さんの「言葉の力」という随筆を思い起こしました。大岡さんは、「美しい言葉は、それが単独で美しいのではなく、それを発する人間全体を背負っているのだ。」と言います。

「美しい桜色の着物は、素人は桜の花びらを煮詰めて染めると思いがちですが、実は花の咲く直前の木の皮で染めます。桜は木全体で桜色をつくり出そうと、懸命になって生きています。その力が、美しい桜の花びらの一片となって現れるのです。

そのことは、言葉と人間全体の関係と同じではないかと思うのです。私たちが発する言葉は、その人の生き様や考え方の全てを背負っています。口先だけの言葉には、重み、真実が感じられず、言葉は、その人の全てを反映しています。」と言うのです。

新しい年のスタートにあたり、新鮮な気持ちで、新たな目標を掲げていると思います。目標達成のために、目標そのものだけでなく、それを支える生活習慣全体や自分の心構えも根底から変えていきながら、大きな成長を目指してほしいと思います。

本年も本校の教育活動へのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。